

ケースバイケース
複数のクラス、学年にわたり、学級閉鎖が必要となる場合。(学校行事前等実施)
教育委員会の判断。

9) インフルエンザで、多くの教職員が出勤困難となった場合の代替策はありますか。

	高校数	%
1. ある	57	11.0
2. ない	460	89.0

10) 「1.ある」と回答した場合 具体策

職員の出勤困難の
際の代替策

課題の準備、連絡体制の整備
授業の組みかえ、合同授業（体育等）課題プリント学習
自習又は同教科の教員が対応
自習時間とし、プリント等で対応出来る教師が見る。
授業変更
予め自習課題を準備
その様な事態が生じないように対応する
各部や学年で協力
分校の為、本校職員の動員によって対応するものとしている。
自宅での課題文書を渡す。
教職員が出勤困難の場合は非常勤講師の活用。ただし、教職員の欠勤が多い場合、すでに生徒の欠席も多く学年閉鎖をしている可能性がある。その場合は休校措置をとると思います。
休校した日数は長期休業中に出校とする。
学校閉鎖
学校休業
課題等で対応する。
メールでの連絡
臨時休校
授業カット（繰り上げ下校）状況により後日振替え
学年団、教科にて対応
代（振）授業や合同授業にする。
メール配信
学級閉鎖、学年閉鎖等。生徒へは課題を出し、ホームページ上で諸連絡をする。
かわりに授業を行ったり自習のプリントをやらせる
他の教員が代わって授業を担当する（出勤困難者が増加すれば不可能）
附属中学等との連携
代替要員の確保
自習で対応する。インフルエンザにかからないよう予防接種をすすめている。
対策委員会で検討

自習課題の用意・休校や登校時刻を遅らせる場合は一斉送信メール
授業変更等学年での授業形式にする等
課題作成やメール配信による指示の方法を考えている
学校閉鎖とする
学級閉鎖
学年、教科間で代替授業を行う。
出勤した教職員で対応する
多くの人が同時にかかったことはなかったので、1～2人では、他の教員で授業に行くなどの対応で済みました。
臨時休校
学校のホームページより学習課題を指示。
初期に、罹患した教員の復期後の活用や教員OBや学習塾の講師の活用の検討
パソコン、メールの活用・事前に課題の検討
授業の代講、自習課題
授業の代講、自習課題
休校
インターネットの利用
他の教科担任又は講師で代替、代替不能→休校とする。
状況によって協議し、対応
近隣の学校より、応援を依頼する。
自宅における勉強方法を指導
午前中授業などの短縮授業
臨時休業など
プリントをやらせる
マニュアルを作成してある。
出勤できる教職員で対応

5. 新型インフルエンザ対策に関する課題について

1) 新型インフルエンザ対策を推進していく上での課題がありますか。(複数選択可)

	高校数	%
1. 感染症についての情報の収集	246	43.9
2. 教職員への予防策の周知徹底	222	39.6
3. 感染症を診断する医療機関の協力	143	25.5
4. 衛生管理・感染管理に必要な設備の充実	273	48.7
5. 生徒やその保護者への理解促進	311	55.4
6. その他	31	5.5
7. 特にない	68	12.1

課題としては、生徒や保護者への理解の促進や情報の収集との回答が多かった。

2) 新型インフルエンザへの対策で、実行したくてもできないことはありますか。

	高校数	%
1. ある	115	22.5
2. ない	395	77.5

「1.ある」と回答した場合のみ、以下ご回答ください。(郵便番号順)

内容	理由
マスクや消毒剤など、人数分、必要日数分備蓄したいが、できない。	・学校にインフルエンザ対策の予算がない。 ・流行期には購入したくても物品がなく購入に時間がかかった。
感染性対応の主担当である養護教諭は基本的に1校1人のため、インフルエンザ対策にのみ時間をさくことができず、十分な管理・指導ができません(100人の在籍生徒でも1人、1000人規模の大規模校でも1人で) {・手指消毒薬の設置、点検、補充・ドアノブ、床などの消毒、資料作成・感染生徒の対応、広報活動、等々	国の配置規準による、養護教諭配置は県に運用がまかせられているため、必ずしも規準に達しているとは言えない現状がある。(高校の場合)
加湿器がほしい	予算がない
各クラスに加湿器を置くこと。次年度に向けて検討中。	予算がないため不可能。

学校保健委員会を作っていないことがあり 学校医師との連携が難しいことと、開催も時期が困難です。3年前(平成19年)春に麻しんが流行して学校閉鎖になりました。その時も前例がなく大変苦慮して学校閉鎖になりました。その後日本全国で広まり、大変大きな話題となりました。	新型インフルエンザ対策は、麻しん蔓延の対策と同等の重要性があるにもかかわらず、(もしかするともっと大変かも知れないとも思われます)情報不足、収束しつつあると話題から遠ざかる傾向にあります。
多数の生徒がり患すると、仕事量が増え、精神的にもきつくなるので、もう一人養教がいるといいのと思う。(その時のみ)	
新型は季節性より解熱後も他への感染力が強いと聞きましたが、解熱後2日で登校してしまう、もう1日休ませたい。	
・ドアノブの消毒や消毒用の洗剤等を用意することが予算的に大変である。H21年度は対応したが、今年度は人数が少ないこともあり、対応していない。	・予算が大変である
感染症対策用品の備蓄の充実	予算不足
マスクの備蓄。	予算がない
私学の場合、情報が来ない。又、来ても遅いため情報の入手経路を統一して欲しい。	
・保護者への情報、連絡の仕方の徹底(メール配信利用など) ・危機管理体制の充実	学校側に関心がなく、提案しても後回しか、起きた時に対応すればいいと、思われている。
インフルエンザの疑いがある生徒と、他の体調不良者やケガ人を別々の部屋で対応すること。	ベッドや応急セットは保健室だけにあるため、他教室では対応できないから。
教職員の理解不足	養護教諭にまかせておけばいいという考え
備品を購入する際の予算がない、など他部署との話し合いや、感染拡大予防の個人の問題意識レベルの相違	生徒、教員ともに人数が多く、また、教員が職員室という一つの空間ではなく、バラバラに部屋があり集まる時がないため、行動や認識を一致させることが非常に困難なため
インフルエンザの予防には加湿器が有効ときくが、各教室には設置していない(保健室には2台あるが)	中高合わせて42学級あり、特別教室も含めると多数の加湿器が必要なため。→①金銭的な問題②メンテナンスの問題(保健室の加湿器は1ヶ月に1回～2週間に1回清浄をしないと衛生的に使用出来ない) 人的に何十台

	もの加湿器を衛生的に管理するのは不可能。
教職員の新型インフルエンザ対策への理解を深めることが難しい点と感染症対策の用品類の予算	時間不足、予算不足等々
一時的にマスクや消毒薬が入手困難となり、こまった。	
1. 医療機関への受診 2. 保護者、生徒の新型インフルエンザに対する認識	1. 経済的理由により受診しない家庭が多い。 2. 病気に対する認識がない家庭が多い。
予防接種を推奨したいが、個々の体質や、家庭の方針もあり、強くはすすめられない	予防接種は個々に受けるものだから学校ですすめるだけでは徹底しない。かといって昔のような集団接種も困る。接種率を上げるための具体策がないから。
最新の情報の一本化…	より早い、校内対応のため必要。
手洗（石けん）・うがい（含嗽薬）・消毒薬・マスク等を十分に購入する予算が無いので。	健康管理意識や危機意識が低い。新しい情報には飛びつき大騒ぎするがくり返されていく中で意識を持たなくなっていく人が多いと感じる。国・県の対策も同様に近いと感じる。
疑いが予測される時の予防策としての念入りな対応。（状況に変化がない時には受け入れられない）	通常の教育活動に影響のある対応は学校内（教職員）にはスムーズに受け入れてもらうことは難しい
隔離する部屋の不足。インフルエンザの疑いで、早退させたい場合、保護者が迎えに来るまで、保健室で休養させることもあるが、インフルエンザ以外で利用している生徒への感染も心配される。	
・備蓄出来るものが制限されてしまう・手洗い場が少ない	・予算が少ない
課外活動の制限	大会等が決定しているため、急激に症状が出た生徒が増加した場合の（欠場などの）判断が難しい。

<p>①・毎朝の検温の指示。②・解熱後、2日間は（体力回復のため）休むことの指示。③・医師の診断を受けさせない親。</p>	<p>①（体温計がない。体温計がこわれている。生徒自身が（寝坊して？）時間がない。めんどうくさい。）などの理由が生徒から出ている。②現在の社会状況、保護者の経済状況…により生徒を休ませないで、登校させる。当日、また早退する。（このくり返し）③解熱剤で熱が下がったので、登校したと答える生徒。そして早退へ。（これは、ウイルスの変異になるのではないかと危惧する）</p>
<p>感染が疑われる者への登校制限徹底されない</p>	<p>学級閉鎖を行なった場合、そのクラスの生徒が、検定試験や、対外試合に参加できなくなるが、本人が発症していない場合、本人・保護者・指導教諭らの理解を得るのが難しい。</p>
<p>・感染者の潜伏期間中の行動抑制。</p>	<p>・本人が自覚できない。・社会的に多少のことでは職場は休みにくい。・初期症状が出て、その時点では判定が困難。</p>
<p>・体調が悪くても無理して登校してくる。</p>	<p>・感染症の理解がとぼしく、まわりの人へ影響してしまうことを考えない。</p>
<p>臨時休業（学級・学年・学校閉鎖）</p>	<p>・高校は授業時数確保のため、休業が簡単にはできない現状がある。・生徒の住居が、小中学校より広範囲になっており、通学手段も異なっている。そのためサーベイランスが流れても、即断しづらい。</p>
<p>・加湿器を各教室に置きたい。</p>	<p>・予算の問題により難しい。</p>
<p>感染予防に必要な物品、設備が不十分</p>	<p>経費がかかる。</p>
<p>・保護者の都合・加湿器の衛生管理</p>	<p>・迎えるの時間、や受診の有無・加湿器タンク内の、清掃や水の管理等</p>
<p>「5. 生徒やその保護者への理解促進」がなかなかできていない。</p>	<p>自分たち（学校の教職員）が素人で知識不足なために</p>
<p>手洗いの徹底</p>	<p>校舎が古く、手洗いをさせたくても、寒い冬に真水で、感染症予防のための、充分時間をかけた手洗いは無理かと思えます。またトイレも古く、手洗い後に入口のドアにまたふれなければならない構造になっています。トイレ・手洗いの施設の改善を望みたいと思えます。</p>

・アルコールジェル等、高価であり買えない。 ・生徒が熱が出ても医者へ行かない。学校へ登校させる保護者。 ・ワクチン接種を行なう生徒が皆無に等しい。	・消費費が少ない（お金がない。） ・保護者の意識不足。お金を予防には使わない。貧困のため、保険証ないので医者へ行けない。
全校生徒・職員分のマスクや、常時設置できるだけのアルコール製剤は備蓄出来ない。	予算がないため。
感染症の予防策を周知徹底しても、流行期には、集団中の感染拡大を予防することが困難である。	人類が、感染症と共存していくには、ある程度の感染拡大は、しかたのないことに思えるのだが…無菌はありえないし、免疫も必要に思える。
マスク、アルコールなどの備蓄	費用に限りがあるため十分に備っていない
トイレの水道器具、消毒薬など対策には予算が必要であるが、その費用がない	
手洗い後の手の乾燥器設置。	予算がない。
・予算がないため、学校内に配備する、予防のための、消耗品など、購入が本当に厳しい。 (理由も記しました)	
校舎内に水道設備が少ないため手洗いうがいの指導をしても十分に行える環境が整っていない	経費がかかるため、すぐには改善できない
①予防接種の勧奨はできるが、強くはできない。②家族に感染者が発生した場合、登校停止にはしにくい。	①アレルギー様疾患をもっている生徒が多くいるため強く勧奨できない。又、経済的な理由もある。②人数の多い家族では、停止が長びいてしまう可能性がある。
生徒・職員に予防接種を勧奨しても受ける人は少ない。	お金がかかること、時間もかかること、注射嫌い、など
・十分な消毒薬や空気清浄器・加湿器等の設備の充実・マスク等の衛生材料の充実	予算不足
感染している疑いのある生徒を一時的に隔離すること。	部屋がない。
新型インフルエンザ及び他の感染症に関らず、マスクを着用するように呼びかけるが、着用しない生徒も多い。	経済的理由とマスク着用における息苦しさなどから。
薬品によっては、施設・設備が変色することが考えられる。	どこでも安全に使用できる消毒剤があるとよい。

感染が疑わしい生徒を他の体調不良者と隔離して、休養させたいが、部屋がなく困難であった。	
①学校閉鎖をするのは現状では難しい②学校医との連携	②学校医に流行状況を連絡しても助言等いただけない。学校医というより病院のDrとしての立場が強く、現場への指導助言を得にくい。
必要な設備の充実	予算確保が難しい
教職員への出校停止	教員本人の有給休暇であるため
インフルエンザ、流行期間中の早期受診、自宅安静の徹底	インフルエンザも含め、伝染病を軽視している、保護者、教育者の共通理解が得られない
保健だよりや校内放送を通じて感染拡大の予防を啓発するが、生徒(クラス内に於いて)達の認識が甘く十分に周知徹底出来ない時があった。(女子生徒が多く昼食時に於いて食べ回しをする行為が目立ち感染者が増えた。	
	① 内予算だけでは、備蓄することもできない。 ② 1週間まとめた情報は入手できるがリアルタイムではできない。
加湿器などを各クラスに配置したいが現在できていません。	予算の関係です
・昨年度と本年度の基準の変更の周知徹底が困難・中央からの指示文書の表現が「あいまい」な解釈ができてしまう。	・「7日間」「およそ7日間」・出席率??→
全教室へ空気清浄、加湿器を設置したい	コスト面
教室・トイレのドアノブを毎日アルコール拭きしたい。	・それだけの量のアルコールの備蓄はない。 ・人手がない。
各教室への加湿器の設置。	予算の問題
緊急連絡個人メール配信制度	まだ状況が整わない
手洗い場の数を増やすこと	手洗い、うがいの推し進めをしたいのだが、生徒数に対して手洗い場の絶対数が足りない。が、実際に増やすとなると工事をしていく必要があるため不可能です。

家族内での患者がいる場合の生徒への指導の程度がむつかしい（感染源としない為の）	
①学校内の消毒を全校（全教職員）で実施できない②県より指示された学級閉鎖の基準どおりにできない	①②とも管理職（校長）の考え方により、全職員へ周知しにくい。
過剰な対応なのか、妥当な対応なのか、教員の中で考えがマチマチであった。換気、健康観察、マスク、うがい、などインフルエンザにかからないうつさないという思いは教師、一人一人でも異なり、生徒への指導はなかなか徹底しなかった。	どんな小さなことでも同じ思いで、行なわなければ、効果はあがらないと思う。統一されたマニュアル化したものが、必要だと思う。県よりの指導は、いつも遅れ気味で、現場の人間が、その時その時何が最善なのか、試行錯誤しながら手探り状態で行なっていた。
備品の予算対策。	限られた財源の中で、備蓄していく事が困難。
①登校制限②環境整備	①疑いのある生徒を休ませたくても、診断が出ないと出席停止とならず、欠席、欠課となり、生徒自身の負担になる。（欠席、欠課が多い生徒ほど）②暖房設備による教室環境の改善をしたい所もあるが、予算の都合でできない（加湿器の設置とか、天井ファンとか）
消毒液（長期間、その効力が続くもの（e t e c ?）の購入※高価なものなので	感染防止のため
集団生活なので手洗い、うがい、マスクは徹底するように指導しました。手洗い用のアルコール、マスクも用意しました。しかし、ドアノブや手すりの清掃・消毒ができませんでした。	人手がない時間がない
感染予防のための手洗い、うがい、換気等については、指導し、学校でも家庭でも、行うよう伝えているが、現在学校で生徒が励行するには物理的に難しい状態にある。	・校舎建て替えに伴い（予算の都合上？）手洗い場が以前より少なくなった。・教室は廊下をはさみ設置されているため窓を開けても風の通りが悪く換気にならない。・手洗い場が少なく、すり込み式手指用アルコールを設置したいが、使用期限が短く、コストも高いため、設置するには限りがある。
今後ずっと継続するのであれば、手指用消毒液の購入のための予算確保が難しい。	予算がない。

今後、パンデミックが予測されている新型インフルエンザについての生徒・教職員の理解促進と周知徹底。	国や県がどのような状況を予測していて、どのような対応を計画しているのか情報が不足しているため。
インフルエンザに罹患した後、家庭においてきちんと休養をし解熱後2日経過し体調が改善して登校してくる生徒と、咳込み・微熱の状態に登校してくる生徒がいる。文書でお願いをしているが、保護者の考え方の違いもあり強く言えない。又、医師の指示も曖昧であり、統一した指導の限界を感じる	
予防対策を行う上での環境整備として、・校内の手洗い場の改善・各教室に設置したい備品等	金銭的での負担
消毒薬の購入	予算がない
予算がかかるもの	
・家族が感染した場合、本人が感染が明らかでない場合の登校について・ワクチンの有効性が定かでない時に接種勧奨を行う	・授業を受ける権利があるため、どこまで登校を自粛させるかが難しい。・ワクチンの有効性がわからない時や任意接種の場合に経済的事情や保護者の信条から勧めるのが難しいことがある。
早期受診の推奨。	医療機関が、発熱してから1日経たないと検査陽性にならないからといって、「生徒に38℃あっても様子みて次の日に受診する様勧めてくれ。」と（医師から）連絡があったのには困った。
③上記にも記入しましたが、医療機関によっては、インフルと診断されないのは不思議に思います。	生徒にとっては、学校伝染病で出席停止になれば3年間皆勤賞もとれる場合もありますが、不明です。
かかっている疑いがある生徒の出席停止扱い。（特に高等学校は、進級、進学において出欠管理が重要）	学校保健安全法第19条には「…かかっている疑いがある」場合にも出席停止扱いができるとあるが、（つまり欠席扱いにしない）学校で出欠管理をしている部署（教務係）が、確定者しか出席扱いとしたがらないため、有熱者などの早期対応が遅れ（とりあえず登校する生徒が増える）感染拡大につながる。
加湿器を教室に合ったものにしたい（今、あるものは教室に対して小さい）	予算がない。

予防接種	・本人・保護者の理解・経済的問題（接種費用）・予防接種ワクチンの準備…国（？）
衛生管理や感染管理に必要な設備や物品の充実	予算がないので、充実できない
・感染対策用備品の十分な備蓄ができていない・手洗いやうがいの場所が充分でない	・予算が少ない・校舎の構造上の問題
衛生管理、感染管理に必要な設備の充実	予算的な問題
教職員や生徒は、多少発熱や咳があり関節痛などインフルエンザ様症状がでていても無理して学校に登校（出勤）する。	生徒は欠課したくない。職員は授業への迷惑をかけたくない。
医療機関で診断されたときの指導方法を、保護者からでなく、医師から文書等で連絡がもらえると対応しやすいと思う。（今後、強毒なインフルエンザが発生したときのために）無料で、簡単な文書でも良いので作成してほしい。	新型インフルエンザの場合、出停の基準や、家族の行動の制限など変更が多く、専門家の意見を聞き、判断して行きたいから。（医師によって意見が異なる場合があり、現場は対応に困っている。）
インフルエンザ感染対策用の備品を十分に確保できない	・予算が充分にないので購入ができない。
衛生管理・感染管理に必要な設備や（消毒液等）の充実・整備	予算措置がないことには、なかなか整備、充実は難しいと考えられる。
感染症に関する講話（職員向け、生徒向け）	・授業時間内の設定が難しい・予算措置がない・県内に講師としてお願いできる人材リスト等がない
寝具類（感染予防のための交換）	インフルエンザの疑いがある生徒を休養させたベッドの寝具類は、その都度、交換する方が予防効果が高いと学校医からアドバイスを頂いたが、シーツの枚数等、物理的に難しい。
①手洗い場②換気③医療機関	①各教室にすべてに手洗い場はなく、必要な時にすぐ洗えない、うがいができない。②寒い日は特に、なかなか生徒が窓を開けずうまく換気がおこなえない。（頭では理解しているが…）③症状（発熱など）があつて6～12時間経過しないとインフルエンザ検査は、きちんと行えないのに、それを確認せず実施し、（－）と診断後なかなか症状おさまらないため再診すると（＋）であつた例がある。

各クラスに加湿器、アルコール製剤を設置すること。(現在は、加湿器は保健室にしかなく、アルコール製剤は生徒玄関や図書館・進路指導室等、生徒が多数使用する場所にしか設置していない)	予算がないため
アルコール製剤での消毒(手指やドアノブや床など)	経費の余裕がなく、購入が十分にできない
うがい・手洗い	水道設備が不十分である(トイレの手洗い場のみ)
・全ての教室に加湿器を設置すること	・総合学科で移動授業が多いため、1人発症すると全クラスでの罹患につながる。予防のため、全クラス加湿は必須だと考える。
感染予防のための除菌・除ウイルスのための加湿器や薬剤などを十分な量の設置できない	予算がないー準備するものとして文書はく るが購入できないー
・加湿器等の教室への設置	・予算・設置後の管理
・早期受診・ワクチン接種、マスク着用。	・経済的な理由で受診しない生徒がいる。 ・経済的な理由でできない生徒がいる。
感染対策用の備品の備蓄について。	感染予防についての指導がいろいろとある が財政困難なため苦労することが多い。
新型インフルエンザの疑いがあるため医療機関の受診をするよう保護者に連絡しても受診せず、家庭で経過観察するケースがある。	保護者が働いているため受診させる余裕がない。
校内設備の不十分さ	各教室がセントラルヒーティングであるが、加湿器が設置されておらず、乾燥がひどい。また、加湿器等が設置されても管理面で不安がある
・衛生管理・感染管理に必要な設備の充実	・新型インフルエンザでも毒性が強いものが流行した場合、マスクや手指消毒(アルコール)だけでは問題がある。
①衛生管理・感染管理に必要な設備の充実②教職員の代替確保③教職員の予防接種が優先順位の中に入らず、いつ感染するかわからない状態で、毎日罹患の疑いのある生徒達と対応してきた	財政難のため、予算措置不可能

学校施設や設備が古く、衛生管理が充分できない	・トイレや水飲場などの施設が古く、破損や汚れが目立つ。・教室の暖房が煙突付きの石油ストーブであり、場所により湿度差が大きい。・コンクリートの廊下は寒く、汚れている等。
効果があると理解しながらも「予防接種」は任意なのでほとんど接種できていないこと。	・意識が低い、経済的負担もある。
・経済面…空気清浄機の購入ができない・早期受診・患者かく離…保ゴ者が勤務しており迎えに来れず、自力下校。校内に別室（感染症のみ）が1ヶ所しかない。部屋が少ないため、対応しきれない	公立なので、県が助成しないと、改善されない
・必要物品の備蓄と購入。・SARSや、強毒性の新型インフルエンザなどのレベルの感染症拡大時の校内マニュアル	・年度始めに予算が決められてくるので必要だと思われる物品（マスク、石けんなど…）を備蓄できない。・文科省がマニュアルを出し、それを更に県が検討し、更にそれを学校が検討するので、時間がかかりすぎる。予想して検討すべきではと話す、県の対応ができていないのに…と管理職はいう。
疑いのある生徒の受診の徹底	経済的困難さから、受診したがる生徒が多い
感染対策用備品等の準備	予算（人数も多く、感染者数が増えてくると用意できない。）
登校の制限	体調がおもわしくないときは登校を見合わせて欲しいのですが単位のこともあり、体力のある高校生は無理をして登校してしまうことが多い

3) 新型インフルエンザに関する行政等への要望はありますか。

予算をつけてほしい。
行政の方針を変更する場合は、学校へも知らせてほしい。たまたま相談の電話をかけた時に知らされたが、ホームページ等に記載してほしい。
マンパワーの充実
特になし。
特にない。情報を細かく知らせていただいているのでとても助かっています。
情報提供・対応マニュアルの作成
情報を早目に流してほしい。
インフルエンザの流行状況がリアルタイムで把握できるシステム作り（現在の定点医療機関からの報告では、地域の流行状況の把握に一週間の遅れが生じてしまう。また、近隣の学校の流行状況を把握できるシステムができていれば、さらに予防対策に力を入れることができるため。）
千葉県では学校現場の要請も聞かずに公立高校いきなり固形せっけんとマスクが送られてきましたが、現場のニーズに合った支出をしてほしいものです。
電車やバスなど、人の集まる場所に予防を呼びかけるポスター等をしてほしい。
昨年度は学級閉鎖の基準がきびしく多くのクラスが閉鎖とせざるをえず、学校の運営に少なからず支障が出たが本年度は早くに閉鎖の基準が緩和されたため、支障がなかった。あまり厳しい基準で閉鎖するというのは考えものだと思います。
サーベイランスの活用方法がわかりにくいので、周知会の実施
消毒に関しては、薬剤を購入したい。是非、補助金をお願いできたらと思います。
我々が不安に陥らないように、正しい情報と対策をお願いしたいです。
全クラスへの加湿器配当
インフルエンザ対策に対しての予算を私学にも行きわたるようにしてほしい。
昨年度のように感染拡大が懸念される時は、補助金を出していただきよかった。必要物品、備蓄をしたいので感染拡大時早めに予算がほしい。
予防ワクチンを希望する学校現場の教職員に公費で接種できるよう予算措置をしてほしい。（予防することでいろいろな問題が小さくてすむ）
①情報を速報で伝えてもらいたい②明確な指示を出してもらいたい（学校における対応に関する指示）③対応できる医療機関の明確化
特にありません
早期受診をすすめられますが（マスコミだけかもしれませんが）検査（痛い）をしても確率が低く12時間～24時間後に、もう一度辛い検査を受けなければ、いけません。・補助はいりませんが、「ワクチン」の奨励をお願いしたいです。
患者の報告を簡素化してほしい。・学校が必要としている物品と行政から配布された物品にミスマッチがあった。配布する前に要望を確認してほしい。

感染対策用の備品をそろえる予算が各学校におりたら良いと思う。
対策のための備品の支給・正しい情報の発信・今後重症化しやすいウィルスに変異した場合、拡大予防のため早期に経済活動への制限も考えてほしい。(ロックフェスや、野球サッカー等の試合は通常どおり行なわれていたことに疑問を感じた)
今年度は特になし
特にありませんが、情報は、専門家はもちろん、一般の人でも手に入れられるようにした方がいいと思います。
インフルエンザの検査料が高いので今の半額にならないかと思う。1700～1800円が、きつい家庭もあるので受けない人がいる。
最近の有効な情報をタイムリーに発信してほしい。
新型に対する対応が、昨季にくらべて、ずいぶんと、巾がある様に感じるが…
昨年度のマスコミの新型インフルエンザへの騒ぎ方はおかしい。国が対策をとるより先に、感染した者が悪いような報道は今後、どのような感染症であっても絶対にしないでほしい。
情報の提供、設備(予算)の充実
情報を早く伝えてほしい。・マスコミ等で過大に報道されてしまうので、正しい情報がほしい。
予算確保をし、衛生管理面において充実させてほしい。(手洗い液、消毒薬、マスク等の十分な確保)・感染症についての意識の啓蒙(講演会の実施等)
周知文書ばかりで予算がつかない。
上記と同様。
情報を適切、確実に発表してほしい。そして指示、命令してほしい。
マスク、消毒液等の配布
サーベイランスのシステム化。日々の発生欠席状況が把握できる「学校欠席者情報収集システム」への早期参加。(岩手県は、未だ参加していない)
ワクチンの無料化・マスク、消毒剤、医薬品等の十分な供給がされるように、流通の整備をお願いしたい。
強毒性新型インフルエンザが発生した場合の対応策
特に私学の場合、情報の伝達が遅く、報道発表で知ることが多く、学校での対策が後手になった。
行政(都教委)は「インフルエンザ対象をしなさい」と言うがそれに伴う予算の配布がない。昨年度、加湿器購入用の予算が配られたが、その後の消耗品購入用の予算が配布されず、困っている。
感染状況などを随時、提供してほしいです。
ワクチンが開発されたとき、学校の教員も優先的に接種をしてほしい。
マニュアルを学校に任せず、指針を出して欲しい。予算を出して、対策費を助成して欲しい

適切な指導がなされているため、特になし
より強毒性のインフルエンザが発生した場合、今回の対応だけでは不十分な感じがします。正確な情報提供とともに行政の横のつながりを密にしてもらいたいと思います。
予算をまわしてほしい。物品の購入ができない。
☆予防接種の無料化。
情報を確実に伝えてほしい。又、対応策もあわせて伝えてほしい。
特になし
ワクチンに助成金をつけてほしい。
医療費を安くしてほしい。・ワクチンへの補助。
十分な予算の配当をしてほしい。
予防接種の無料化、または減額
騒ぐだけで予算配当なし
昨シーズンの新型インフル大流行の際、学級閉鎖をとる基準の詳細は県からも示されず、学校長の判断にまかされました。それによって対応にばらつきがでたことは事実。(濃厚接触者の扱いにしても同様) →もっと、上のレベルで、基準を作してほしい・感染症関連の予算をつけてほしい・鳥インフルの流行に備え、ワクチンの製造は急務だと考える。
ワクチン接種代を補助してほしい。(生徒分、教員分)
・早い感染予報の情報提供。・インフルエンザ症状の状況説明
不安をあおる情報提供は控えて頂きたいです。
学校だけでできることは限られていますので、行政(県教委)主導で対策をすすめていただきたい。必要に応じ、各校への予算づけもお願いしたいです。
マニュアルの作成
学校現場でまず感染者と接触することとなる養護教諭へのワクチンの接種をおねがいできるとありがたい。・強毒性のインフルエンザと弱毒性のインフルエンザについて正確な情報を現場へ流して欲しい。
正確な情報を出してほしい・対策
特にありません。
正確な情報を、早期に提供してもらいたい
備品購入の予算をつけて欲しい
特にありません。
予防接種の負担金を少なくしてほしい。多くの人が負担を感じずに接種できるようにしてほしい。
新型インフルエンザのワクチン接種の優先順位の一歩目に、学校の職員(教員、その他の職員)が入るべきだと思う。職員は、医療機関勤務者よりも先に、児童・生徒の接して、様々な活動を行う必要があるためである。
現在の所ありません。
昨年度はワクチン接種の遅れが目についた。

感染対策用の物資あるいは、予算。
昨年度の豚インフルエンザが感染力は強かったが、弱毒性であったため、数日の学校閉鎖で押え込んだ。今年度の鳥インフルエンザは、強毒性と聞いているが、情報が、昨年より入って来ない。
どのインフルエンザというわけではないが、予防接種を無料にしてほしい。
予防接種の費用を公費で負担してほしい・空気清浄機の設置及びランニングコストも公費で補助、負担してほしい。
特になし（マスク、アルコール消毒薬の予算措置をしてもらっている）◎予防接種の補助（一部又は全額）ができれば接種率向上するのではないかと思います。
地域の病院、医師と学校との連携システムをつくって欲しい
衛生管理・感染管理に必要な設備充実のための予算確保
最新の情報提供を今後も引き続きよろしくお願い致します。
特になし
学生の予防接種の費用について一部でも公的負担を！（現在65才以上は公的負担で無料になっている自治体が多い）
迅速な情報提供
現状でいいと思います。
H21年度に起きた新型インフルエンザ騒動で、県の方から、アルコールやマスクはいくら位必要か文書できてからの臨時予算配布があった。それから、アルコールやマスク等を購入しようとしたら店頭や業者の在庫はなくなっていた。対応がとてもぬるく感じた。東京都や大阪府では早くから行政での対応方針などを検討されていたのに山口県ではそれを感じなく、後手に回っていたと思う。管理職に対応を求めても、県の対応がまだでていないと言う始末…。今後の強毒性の対応を人ごとと思わず、早急に考えておくべきだと思う。備品についても、「いくら必要か？」と聞く前に、県レベルで備蓄していただき、それを学校ごとに拡大する前に配布してほしい。
早期対応
迅速な情報
より具体的にどのような準備をしておけば良いのか情報提供してもらいたい。
石ケンマスク等消耗品費の予算を別につけてほしい。
新しい情報は早く伝えてほしい
情報の提供・現状・実態
学校に情報が届くのが遅く、情報収集がマスメディア中心となることも多い。ただ情報の正確さ等の問題もあるので、できるだけ早く正確な情報を伝えてほしいし、学校としてとるべき対策も示してもらえるとありがたい。
予算措置・教職員の予防接種も優先対象に入れてほしい（特に養護教諭）・迅速な情報提供

学校保健安全法によると、インフルエンザは解熱した後2日を経過するまでが出席停止の期間の基準となっているが、主治医により指示に違いがある。(例:「2日は休むこと」「1週間後に登校可)」その時の症状や流行具合にもよると思われるが、ある程度統一した指示を出していただきたいと常々感じている。
正確な情報は早く提供してほしい。
情報をよく精査して発信してほしい。
特になし
新型インフルエンザに限らず新しいタイプの感染症が発生した場合には早急に正確な情報が欲しいです。
正しい情報提供(医薬品に頼りすぎない情報も)・正しい情報に基づく物品の用意(一方的に送りつけるのではなく各校の希望をとり入れる)
インフルエンザ発生時、早期の情報提供。
ワクチン備蓄・医療機関の整備・感染予防対策研究施設、用員の充実。
消耗品や備品などへの補助
①併設の小学校は校舎たてかえ時に加湿機能のあるエアコンを設置したが、中高は金銭的な問題もあり、通常のエアコンを設置した。加湿機能のあるエアコン設置に補助金(全額でなくて、差額でよいので)を出す、加湿器のメンテナンスに補助金を出すなどすれば多少高くても加湿機能付のエアコンが普及するのでは??②特に新型の場合は学級閉鎖の基準等は、行政から示して欲しい。③特に新型の場合、ワクチンが接種出来る日を土日にも設けて欲しい(中高生は病院の開いている時間に帰れない)
大変むずかしいことですが、できましたら下記を要望します。①早めの情報伝達②一貫した指示
今のところ特になし
情報提供
予防接種の確保と接種率の向上を図るための手段を講じてほしい
接種代金の無償化。
タイムリーな情報を提供してほしい
強毒性の新型インフルエンザへの対応をより具体的に示してほしい・対策費あるいは、物を支給してほしい
情報提供・学級閉鎖等の具体的数字
ウイルスの毒性と感染拡大防止策を早く市民に周知できるとよい。
麻疹流行の際は学校裁量に任せすぎで現場は苦勞した。新型インフルエンザがいざ流行したら、もう少し都は責任を持って、学校に指示を出してほしい。
情報が多すぎると学校現場は混乱します。適確な情報が入手できないことも現場の不安はまします。ぜひ情報を選別し提供してほしいと思います
関係する情報を早期に掌握し、必要に応じて速やかに提供してほしい。
これから強毒性のインフルエンザが流行した時のことを考えると、とても不安である。

対応が過剰すぎると思われる事もあったので、弱毒性とわかった時点で方針を見直してほしかった。
昨年度は県や市で各校のインフルエンザ罹患数や学級閉鎖情報がインターネットで共有され、学校での対応にとっても参考になった。こういったとりくみが毎年あるとよいと思います
昨年度新型インフルエンザが流行した際、医療従事者からワクチン接種となったが、学校での保健室、養護教諭は対象とならなかった。患者（疑いのある生徒）と接する機会の多い養護教諭は対象とすべきであり、そして毎年のワクチン代を公費にしてほしい。（現在私費で打っている）
①感染対策用備品の予算の増大②地域間のネットワークの充実。
新インフル発生の際は正確な情報が現場においてくるのに時間がかかりすぎていた。正確な情報が入る前にメディアによる情報が流れすぎたため、対応に困乱し、不必要な不安感を与え、冷静さを欠くこととなった。情報が、正確に末端まで迅速に伝わるようにして欲しい。
予算の援助対応策の徹底指導。
ワクチン接種をもう少し安く、または無料化してもらえたらよい。
迅速な情報提供・学校臨時休業時の社会的プログラムの充実
医療スタッフの過労対策（十分な給与、要員の確保）
拠点病院の設置を県内各所に置いてほしい。・すべての病院で受診できるようにしてほしい（市内中心部から外れているため受診が困難な場合が多い）
保健所への連絡や指導を受けることなどが必要でしたが、保健所もパンク状態で対応できない状況でした。公立と違い私立は教育委員会がないためどこにも質問できず、判断に迷うことが多々ありました。国→保健所→学校へスムーズに情報・指導があれば助かります。
昨年度の様に大騒ぎせず、重症度を早期に判断して欲しい。また、新型インフルエンザの総括は、あるのでしょうか。あれば、出して欲しい。
正確な情報を流す、パニックを防ぐ・マニュアル作成と配布・消毒用品、マスク等の無料配布
養護教諭以外の教員への感染症予防に向けた意識を高める研修。・報告書類の簡略化。
予防対策に必要な物品を購入するための予算を、毎年つけてほしい。
予防接種の費用がもう少し安ければ受ける人が多くなると思う。無料が望ましいが、とにかく安くしてほしい。
教職員がインフルエンザの予防接種を無料で受けられるようにしてほしい。
文書による通知ではダメ。物品についてはその物を配布してほしい
早め早めの情報提供を切に要望します。また、感染拡大する前の段階で早急に管理体制を確立していただきたい。
適切な情報を早期に流してほしい。